

2026 年 06 月 10 日

松阪市議会議長

濱口高志様

市民クラブ

橘 大介

令和 8 年度防災塾（1 日目）

研修報告書

日時： 2026 年 06 月 7 日(日) 9:30~16:15

主催： 三重県・三重大学 みえ防災・減災センター

講師： ①みえの防災文化づくり：川口淳氏

②災害報道・マスコミ：NHK 静岡放送局員 局長 二宮徹氏

③ボランティア：山本康史氏



参加者：橘大介、楠谷さゆり

(川口氏の講義)

講義内容

① みえの防災文化づくり

～みえ防災人材に期待すること～

三重大学・工学研究科・地域圏防災・減災研究センター
三重県・三重大学 みえ防災・防災センター 川口淳氏

本講義では、防災において「マニュアル通りに動けばよい」という考え方の危うさが強調された。災害は想定通りに起こるとは限らず、地域の実情に合わせて考え、更新し続けることが重要である。

また、防災訓練は毎年同じ内容を繰り返すのではなく、「何を達成するのか」という目的を先に決め、その目的に応じて行う必要があるとされた。

阪神・淡路大震災や東日本大震災の教訓から、行政だけに頼るのではなく、自助・共助の力を高めることが求められる。特に地域ごとの特性や危険性を把握し、地区防災計画を作ることが大切である。

そのためには、地域の高齢化率、耐震化率、災害リスクなどを把握した「地域のカルテ」を作り、それに基づいて具体的な対策を考える必要がある。

最後に、防災リーダーには、分析力、判断力、行動力、柔軟な発想、コミュニケーション力、そして情熱が必要であるとまとめられた。

② 災害から命とくらしを守るには

N H K 静岡放送局員 局長 二宮徹氏

南海トラフ巨大地震では、長時間の強い揺れ、津波、火災、道路寸断により、消防や救助がすぐに来られない可能性が高いと説明された。

そのため、まずは住宅の耐震化、家具の転倒防止、津波避難、火災対策などにより、自分と家族の命を守る備えが重要である。

また、少なくとも1週間は助けが来ない前提で、水・食料・薬を備蓄し、地域で集合場所や助け合いの方法を確認しておく必要がある。

災害では「自分は大丈夫」という思い込みを捨て、正しい知識を学び、周囲にも備えの大切さを伝えていくことが求められる。

③ みえ防災塾「ボランティア」

特定非営利活動法人みえ防災市民会議 議長 山本康史氏

講義では、災害時のトイレや避難所運営、ボランティア活動について説明された。

携帯トイレは、備えておくだけでなく、実際に使ってみる訓練が大切である。また、避難所では行政任せにせず、住民自身が名簿管理、清掃、トイレ管理などを行うことで、生活環境を良くできるとされた。

さらに、被災者支援では、家の片付けや炊き出しだけでなく、子どもの居場所づくり、高齢者の見守り、話を聞くサロン活動なども重要である。

災害では人や地域のつながりも傷つくため、復興には物の再建だけでなく、人の心に寄り添い、支え合うことが必要である。

所感

今回の講義を通じて、防災は「マニュアル通りに動くこと」ではなく、地域の実情に合わせて考え、備えを更新し続けることが重要であることを学んだ。

南海トラフ巨大地震では、消防や救助がすぐに来られない可能性が高いため、まずは自分と家族の命を守るための自助の備えが重要であると感じた。そのうえで、地域で集合場所や助け合いの方法を確認し、共助の力を高めていくことの大切さを改めて認識した。

また、避難所運営や復興においても、行政任せにするのではなく、住民一人ひとりができることを考え、支え合うことが大切であることを学んだ。災害は物だけでなく、人と人とのつながりにも大きな影響を与える。だからこそ、日頃から顔の見える関係づくりを進め、地域全体で防災力を高めていきたい。今回学んだ内容を、今後の地域防災活動や自主防災組織の活動に生かしていきたい。

以上

(報告書作成 橘大介)